R6 校内研修「確かな学力を身に付け、考え表現できる児童の育成」
～対話的な学びの場を工夫した授業実践～

2／14(金)までに Teams から入り、Forms へ入力をお願いします。

校内研修　研究のまとめ

甘楽町立小幡小学校

① 成果と課題（○成果　●課題）

○意識して、対話の場面を設定することができた。

○対話的な活動の場面では、教員対児童の形にならないように、座席の配置など学習形態を工夫した。児童同士の話し合いがしやすくなった。

○児童の実態に合った活動を設定することで、学びに向かう姿勢がよくなった。教材教具を工夫することができた。

○対話的な活動を通じて、児童は自分の意見に自信を持つことができ、新たな視点に気づくことで学びが一層深まった。

○ICT を効果的に使うことができた。ICT やノート・ワークシート双方の良さを取り入れることができた。

○校内研修だよりを作成することで、一人一授業の成果や課題を、参観者以外にも共有することができた。

●児童の積極的な対話を促すためには、精選された発問が必要不可欠である。児童が思考しやすく、かつ思考したいと思えるような発問を研究していきたい。

●児童同士の対話が増えるような発問や声掛けの難しさを感じた。

●話し合いの視点を的確に絞って提示することで、対話をより活発化させる。

●話し合い活動において、児童が自分の意見をまとめることができるように、自力解決の時間を十分に確保する。

●児童の学びが深まるように、児童の発言や考えに対して問い返す技能を身に付けたい。

●教師が介入しすぎてしまったり、説明が長くなってしまったりする場面が多くあった。児童同士の対話で協働する中で、お互いに試行錯誤したり新たな発見があったりと、児童にとっての学びは多い。教師の説明は最小限にして、児童に任せられるところは任せて、児童の積極的な対話を促す。

●児童がつまずいた場面が、絶好の学びの機会になる。教師が直接指摘するのではなく、児童同士で気付きを促し、推敲を行わせることで、対話を通じたより深い学びが実現する。

② 今後の方向性

今年度は、対話的な学びの場を工夫した授業実践に取り組んできた。様々な場面において、対話を通じて児童が自分の考えを深め、互いに理解を深め合う環境を整えることを意識してきた結果、友達の意見を聞いて自分の考えを見直し、時には新たな視点を付け加えて広げ深めようとしている児童が見られるようになってきた。

一方で教師が対話に過度に介入したり、説明が長くなったりした結果、十分な活動時間が確保できなかったりしたこともあった。児童が考えを深めるためには、教師がファシリテーターとしての役割を果たし、児童が自由に意見を交換し、疑問を投げかける機会を提供することが重要である。児童が話しやすくなるような問いを提供することも必要不可欠である。

対話は楽しいものであり、さまざまな異なる視点と交わることで自分自身を知ることができる。単なる話し合いに終わらないように、自己の考えを広げ深めるための対話を引き続き追求していきたい。